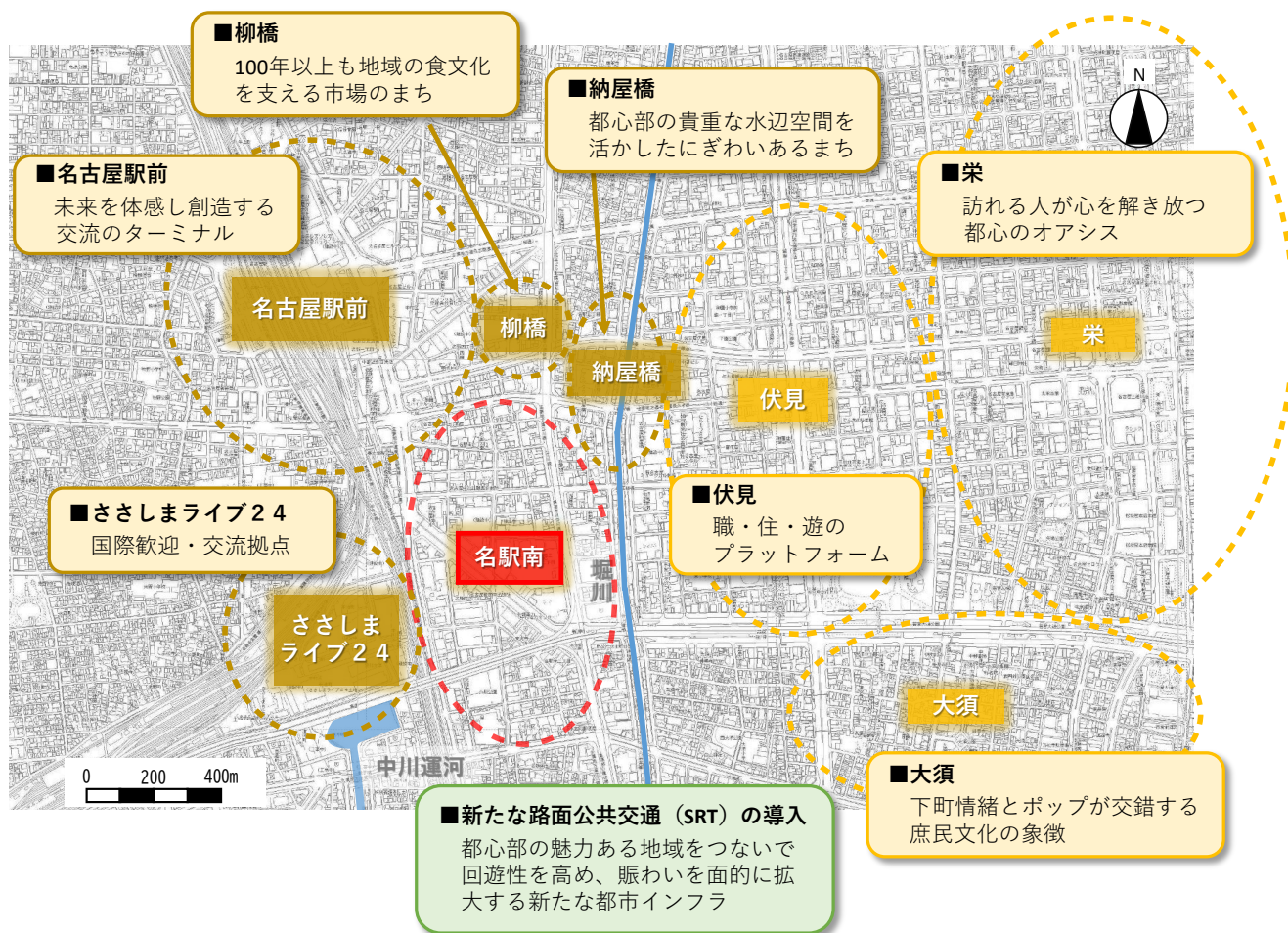


名駅南の周辺動向

「名古屋駅前」に近接する「名駅南」は、北方面は、「柳橋」や「納屋橋」に隣接し、西方面は、「ささしまライブ24」を通じて中川運河とつながっています。また、東方面は堀川を挟んで、「伏見」と、さらに「栄」、「大須」方面へとつながる場所に位置しています。近年、新たな路面公共交通システム（SRT）の導入に向けた社会実験も実施されるなど、名古屋の都心全体（特に名古屋駅東エリア）の回遊性を向上させる上で重要な地区といえます。

そこで、ここでは、名駅南の周辺エリアでの最近の動向を紹介します。



名駅南周辺の主な特徴的なエリア

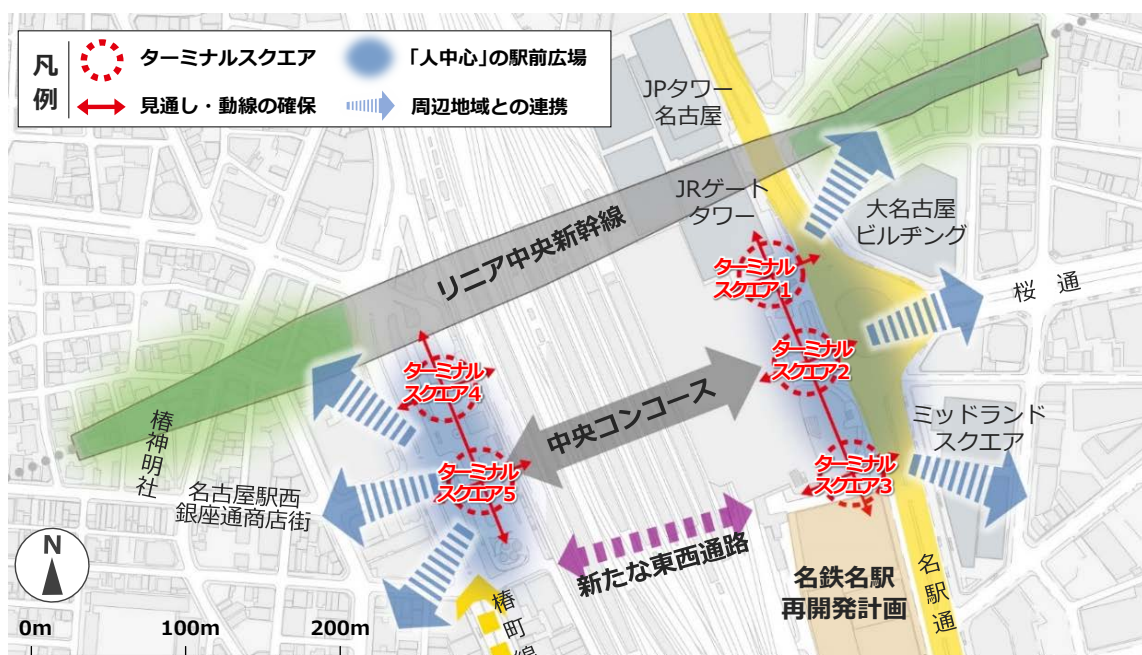
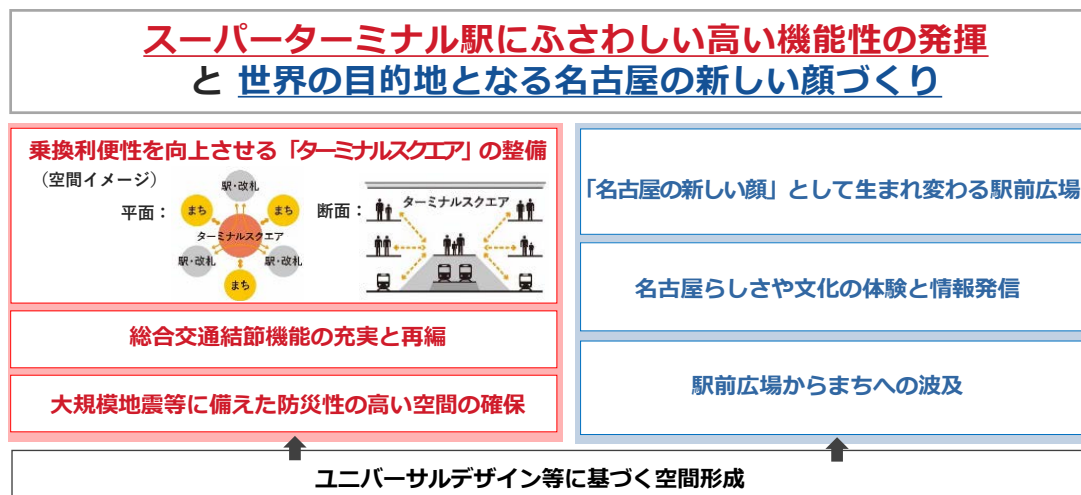
6-1 名古屋駅前

(1) エリアの概要

名古屋駅は昭和 12 (1937) 年に笹島から現在の位置に新築移転され、竣工当時は「東洋一の駅ビル」といわれ、名古屋の玄関口として多くの市民から親しまれてきました。昭和 39 (1964) 年には東海道新幹線が開業し、以降現在まで名古屋駅は発展し続けてきました。今後はリニア開業に向けて、多くの人に足を運んでいただくために、名古屋が世界の目的地となるよう、まちの賑わいづくりに取り組むとともに、玄関口である名古屋駅が名古屋の顔となるよう、駅前広場の再整備を進めています。

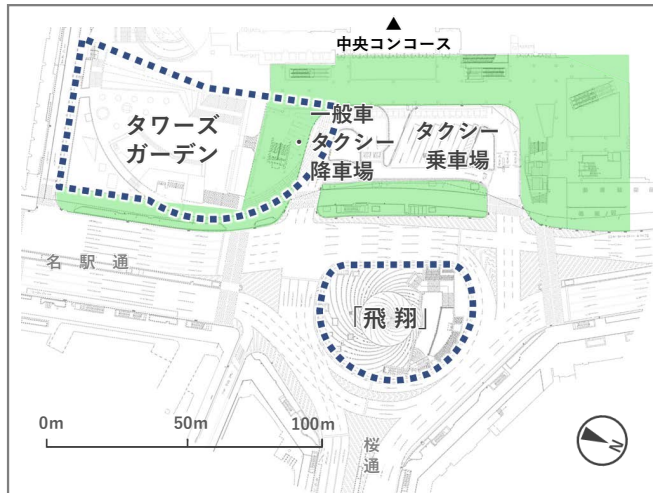
(2) 今後の展望

① 名古屋駅駅前広場の再整備／整備の基本的な考え方



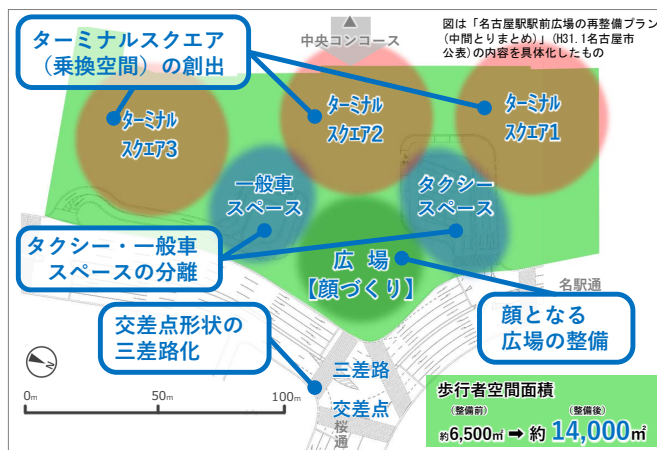
② 東側駅前広場の再整備

- ・現状と課題



- ・整備内容等

【地上部】



※道路の詳細構造、施設の配置や規模等については、関係者との調整により今後変更することがある。
 ※「新たな路面公共交通システム(SRT)」と整合を図りつつ、乗降・待合空間の配置について検討を行っている。
 ※ターミナルスクエア3については名古屋駅再開発計画との整合等が必要。



【地下部】



6-2 柳橋

(1) エリアの概要

柳橋（市場界限）は、100 年以上も地域の食文化を支えてきた市場という魅力的な地域資源であるとともに、名駅と名駅南地区や四間道、納屋橋等の地区間の連携に重要な位置にある回遊性の要となる地区です。

本市では、歴史ある市場という貴重な地域資源を活かした魅力あるまちづくりについて検討を進めており、また、まちづくりの一環として地下鉄柳橋新駅の設置可能性の検討も行っています。



<朝の柳橋>



<夜の柳橋>



(2) 現状と課題

近年、名古屋駅周辺では、大規模な商業施設や超高層オフィスビルなどが建設され、商業・業務機能の集積が進んでいます。都心回帰によるマンション建設も進むなど、名古屋駅を中心にこれらの都市機能が拡大しつつあります。今後、市場機能を継承していくには、このような周囲の変化を見据えたまちづくりが求められています。

① 市場機能の継承

- ・中央水産ビルの閉鎖(令和元（2019）年10月)など、市場関係の店舗は減少傾向
- ・経営者の高齢化もあり、若い世代の参入による後継者の育成が必要

② ブランディング

- ・市場の魅力を地元と連携して発信する盛り上げ策を継続的に行うなど、市場のブランディングを実施するとともに、まちづくりの機運醸成が必要

③ 建物の更新

- ・築40年を超える建物もあり、防災上の観点から耐震改修等の対策が必要
- ・木造や非耐火構造の建物が多く立地し、不燃化への対応が必要

④ 賑わいの醸成

- ・市場機能や飲食店が集積しているため、早朝と食事時の賑わいはあるがその他の時間帯における賑わいが不足

⑤ 土地利用の進展

- ・青空駐車場など低未利用土地が多い
- ・低・中層建築物が多く、高度利用が図られていない

(3) 今後の展望

コンセプト：『世界グルメ天国』柳橋

100年以上の歴史を有する柳橋の市場機能を継承し、より開かれた市場として発展するとともに、食文化体験・交流機能の充実を図ります。

プロの買出人にとっては、目利きの知恵と技で培ってきた「柳橋ブランド」を有する新鮮で高品質な食材を得られる場所に、周辺ワーカー・住民にとっては、日々の生活が豊かになり自慢できる場所になることで、食を題材に、地域・季節ならではの食の魅力を、様々な側面から体験・発見・発信できる場所に、観光客にとっては、柳橋独自の食文化体験を求め訪れたいくなる世界のディスティネーションとなる「世界グルメ天国」を目指します。

将来のまちのイメージ

〈朝の柳橋〉



仲卸・卸小売がメインのプロが通う市場であり続けるとともに、一般客も買いやすく開かれた場となり、地場の新鮮で良質な食材を求め、多くの市民や観光客が訪れる。

〈夜の柳橋〉



夜は観光客や周辺のオフィスワーカー等が訪れる開放的な飲食店街に。市場の味を堪能できる個店やわいわい楽しめるビアガーデンなど、多種多様な店舗が充実。

6-3 ささしまライブ24

(1) エリアの概要

旧国鉄笹島貨物駅跡地の約 12.4ha と中川運河堀止周辺を含んだエリアで、土地区画整理事業等により国際歓迎・交流の拠点を目指した新たなまちづくりを進めています。貨物駅跡地の開発はほぼ完了し、平成 29（2017）年にまちびらきが行われ、平成 30（2018）年には都市計画道路椿町線および笹島線の鉄道交差部区間が開通しました。また、良好で活気に満ちた魅力あるまちの創出及び地域価値の向上を目指し、平成 16（2004）年より土地所有者等によるエリアマネジメント活動が行われています。

① 開発コンセプト

- ・「国際歓迎・交流拠点」の形成を目指した賑わいのある複合型まちづくりを進める
- ・「交流」「環境」「防災」をキーワードとしたまちづくりを推進する
- ・名古屋駅地区のビジネス支援と、ポートメッセの支援の役割を担う
- ・そのための機能として、①宿泊・コンベンション ②商業・業務・文化 ③公園・親水空間 ④住宅の導入を図る

② 基盤整備事業

事業名		事業期間
ささしまライブ24土地区画整理事業		事業期間：平成 11（1999）～令和 9（2027）年度
街路事業	椿町線	事業期間：平成 12（2000）～平成 29（2017）年度
	笹島線（東側区間）	事業期間：令和元（2019）～令和 9（2027）年度

③ 地区内施設

公共施設	道路、公園、高架下広場、堀止緑地、歩行者デッキ 等
民間施設	オフィス、ホテル、コンファレンス施設、商業施設、ブライダル施設、シネマコンプレックス、フットサル場、ライブホール、大学、放送局、賃貸住宅、国際交流・研修施設 等

(2) エリアマネジメント活動

土地所有者等により、「ささしまライブまちづくり協議会」を平成 16（2004）年 7 月に設立し、令和 2（2020）年 2 月に一般社団法人化しています。活動としては、自主的なまちづくりルール（地区整備方針）による統一的な景観やゆとりある空間の創出、シャトルバスの運行、広場の管理、イベント開催、定期清掃等を行っています。



歩道と一体のセットバック空間



シャトルバス運行



イベント



ウインターイルミネーション

(3) 課題

- ・「名古屋駅に近い」「ゆとりある空間」「貴重な水辺空間」といった地区の魅力が認識されていない
- ・地区を訪れるためのアクセスが弱い

(4) 現在の取り組み

- ・堀止周辺の開発による回遊性の向上
- ・笹島線（東側区間）の整備による名駅南地区との動線の形成
- ・エリアマネジメント活動を担う人材の育成



6-4 中川運河

(1) エリアの概要

中川運河は、工業都市としての発展を図るため、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅を結ぶ運河として計画し、昭和7（1932）年に全線開通し、水運物流軸として名古屋の発展を支えてきました。

貨物の輸送形態が陸送に変化したことから、昭和39（1964）年をピークに水運物流が減少し、平成20年代前半には1日数隻の往来まで減少しました。

うるおいや憩い、にぎわいをもたらす運河の再生を目指し、平成24（2012）年に「中川運河再生計画」を策定し、概ね20年先を見据えた再生構想に基づき、運河再生を推進しています。



(2) にぎわいゾーンの現状

都心部に近い「にぎわいゾーン」において、これまで以下の取り組みを実施しています。

① にぎわい施設の誘導

＜これまでの公募実績＞

- ・珈琲元年：平成28(2016)年開業
- ・バーミキュラビレッジ：令和元(2019)年開業

② 緑地・プロムナードの整備

- ・堀止緑地：平成29(2017)年 一部供用
令和4(2022)年 一部供用
- ・広見憩いの杜：平成31(2019)年 供用

③ 市民交流・創造活動への支援

- ・アートへの助成事業＜ARToC10＞（名古屋都市センター主催）により、多彩なアートが展開

④ 民間事業者による施設整備への支援

- ・都市再生整備計画を策定し、民間事業者のまちなかウォークアブル推進事業の利用を推進



(3) 中川運河再生計画



平成 24 (2012) 年に策定。令和 5 (2023) 年に再生計画更新版を策定。

再生理念

「歴史をつなぎ、未来を創る運河

～名古屋を支えた水辺に新たな息吹を～」

再生方針

方針 1 【交流・創造】人と人、人と運河をつなぎます

方針 2 【環境】水・緑・生き物に親しめる水辺空間を形成します

方針 3 【産業】モノづくりの未来を支え続けます

方針 4 【防災】まちの安全・安心を支え続けます

(4) 今後の展望

堀止地区開発

- ・中川運河の玄関口である堀止地区において、にぎわいを発信する拠点を、東側の市有地と高架下用地を一体的に公募し、開発事業者を決定
- ・大屋根やホテル、トレーラー屋台村、イベントビーチなどの施設を、令和 8 (2026) 年 3 月開業予定



堀止地区開発イメージ図

緑地・プロムナードの整備

- ・名古屋港管理組合により、プロムナードの整備を順次実施

魅力的な水辺空間の形成に資する民間まちづくりへの支援

- ・ファンドの設置、運用

にぎわい施設の誘導

- ・にぎわい施設の事業者が進出しやすい環境を整備するため、新たな方策を策定



プロムナードイメージ図

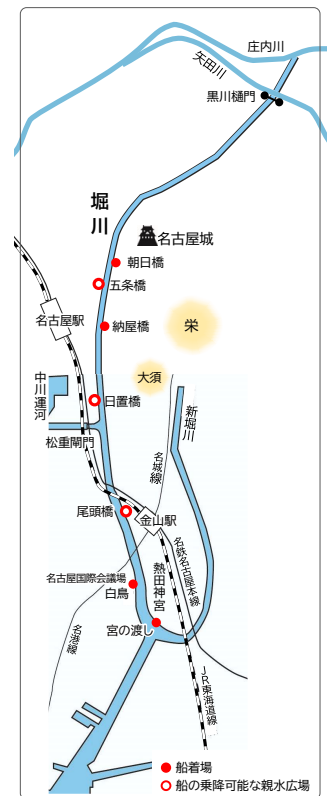
6-5 堀川・納屋橋

(1) エリアの概要

堀川は、名古屋城築城（1610 年）と時を同じくして開削され、物流の大動脈として市民の生活や名古屋のまちの発展を支えてきました。

その後、大正時代後半から水質汚濁が進行し、昭和 40（1965）年代には汚濁のピークを迎えるとともに、物流が水上から陸上に移行したこともあり、人々は堀川から遠ざかってしまいました。

堀川の再生に向け、平成元年に「堀川総合整備構想」を策定し、「うるおいと活気の都市軸・堀川」の再生に向けて、「治水」「浄化」「にぎわい」を 3 つの基本方針として取り組みを進めています。



(2) 現状と課題

① 治水整備の推進

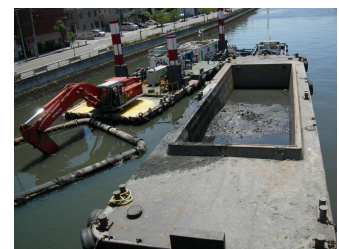
堀川圏域河川整備計画に基づき、10 年に 1 度降るような降雨に対して浸水被害を概ね解消できるよう、下流部より順次治水整備（護岸改修、河道掘削）を進めており、引き続き整備に取り組む必要があります。



護岸整備

② 水質浄化の推進

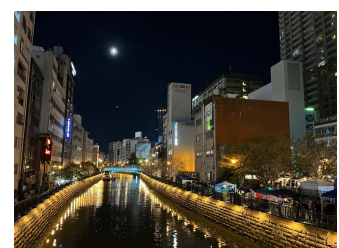
これまでも庄内川からの暫定導水や地下水の活用などの水源確保、川底にたまったヘドロの除去、合流式下水道の改善など対策を進めてきましたが、堀川沿川のにぎわい創出に向けてさらなる浄化を進める必要があります。



治水整備に合わせたヘドロの除去

③ にぎわいの創出

納屋橋地区を中心に、にぎわいの創出に向けた取り組みを民産学官が連携して進めてきました。引き続き、納屋橋地区のさらなる魅力向上を図るとともに、他地区においても新たな取り組みを推進する必要があります。

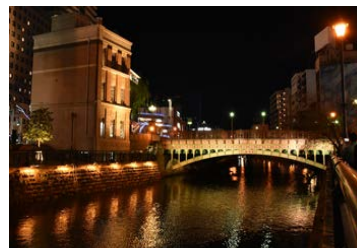


なやばし夜イチ（納屋橋地区）

(3) 現状の取り組み

●ライトアップ

錦橋から天王崎橋間の河川護岸、旧加藤商会ビル、納屋橋等について、令和2～4（2020～2022）年度までの3年間でライトアップ整備を実施し、納屋橋地区のさらなる魅力向上に向け、大正モダンな雰囲気の夜間景観を演出しています。

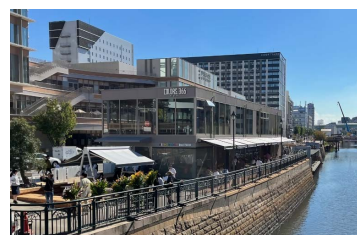


ライトアップ整備状況

●納屋橋南地区市有地活用

納屋橋南東に位置する市有地の活用のため、第一期事業は、平成19（2007）年度に整備・活用の公募を実施し、活用してきました。

第二期事業は、令和3（2021）年度に活用の事業提案を公募し、飲食ブース、ラジオのサテライトスタジオ、多目的イベントスペースなどが入る複合商業施設「COLORS.366」として令和5（2023）年10月31日にオープンしました。



COLORS.366（第二期）

●水上交通の試験運航

将来の民間事業者による水上交通の運航拡充に向けた検討を行うことを目的に「堀川における水上交通活性化懇談会」が平成29（2017）年度より開催され、平成30（2018）年度から毎年度試験運航が実施されています。

令和4年からは、納屋橋と名古屋城前（朝日橋）を結ぶ、なごや堀川クルーズ（春、秋）を実施しています。



なごや堀川クルーズ

●親水広場整備、活用

五条橋、日置橋、尾頭橋に整備した親水広場には、既存の船着場以外でも船の乗降ができるようになっていきます。尾頭橋地区では、納屋橋地区のようにイベントが実施できる水辺活用推進事業を令和5（2023）年度より実施しています。



尾頭橋地区

《伏見地区》

職・住・遊のプラットフォーム



・芸術・文化施設、公園の緑や水辺区間、歴史的建造物などによって醸し出される芸術的・文化的な雰囲気を活かしたまちづくりを進めます。



・良好な民間再開発の促進により、様々な都市機能と調和した都心移住を実現するとともに、地域住民によるまちづくり活動を支援します。



・リノベーションなどにより、意欲ある起業家の創業を促進し、業務機能が集積している従来からの地区の特性をより一層発展させます。

《栄地区》

訪れる人々が心を解き放つ都心のオアシス

- ・大規模公園をはじめとした公共空間を洗練されたゆとりあるシンボル空間として再生・活用することにより、エリアの賑わいを都心全体に広げます。
- ・民間再開発の機会を捉え、様々な楽しみ方や働き方を提供する商業・娯楽・芸術・文化施設等やオフィス等の都市機能を導入し、多様な人材が集まる環境整備を推進します。
- ・エリアごとの様々な特色を活かした多様性のあるまちづくりを進めることにより、名古屋らしさを感じられる都心の魅力を向上します。



《大須地区》

下町情緒とポップが交錯する庶民文化の象徴



・大須観音や万松寺などの歴史的な資源と古着屋などの個性的な店舗の集積した商店街の情緒を大切にすることで、都心の魅力に多様性と彩りを添えます。



・コスプレやアニメなど「ポップカルチャーの聖地ナゴヤ」としてのブランド確立により、国内外から訪れる誰もが集い楽しめるまちの雰囲気を醸成します。

6-7 新たな路面公共交通システム（SRT）

（１）経緯

都心における回遊性の向上や賑わいの拡大を図るため、まちづくりと一体となった新たな路面公共交通システムの導入に向けて検討を進め、平成 31（2019）年 1 月に「新たな路面公共交通システムの実現を目指して（SRT 構想）」を策定しました。

（SRT：Smart Roadway Transit）

SRT 構想で示した最終的に目指すシステムの姿



（２）導入に向けて

① 当初運行時

都心の中で特に移動が多い名古屋駅-栄間の「東西ルート」から SRT を導入します。広小路通において、連節バスの導入やテラス型の乗降・待合空間の整備により、公共交通・歩行者中心のウォーカブルな空間形成を図ります。

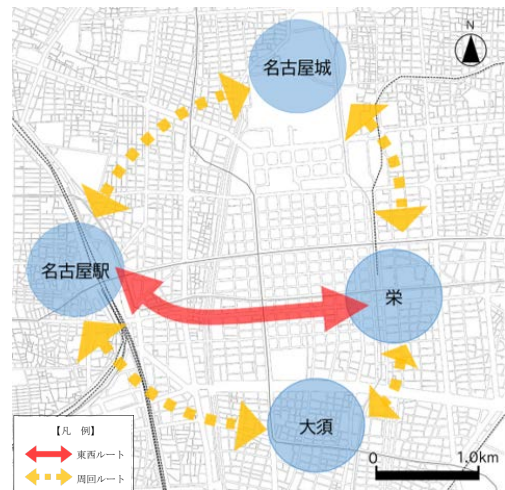


② アジア・アジアパラ競技大会開催時

事業規模の拡大を検討し、名古屋駅駅前広場の整備状況に合わせた発着や、「周回ルート」の一部実現を目指します。

③ リニア開業以降

リニア中央新幹線開業時には、来訪者など多くの方が名古屋駅から SRT を利用し都心部の各拠点へ快適に移動できるように導入を図るとともに、最適な都心部周回ルートの形を目指します。



運行ルートの拡大イメージ



学区の活動

六反学区では、持続可能な地域づくりやコミュニティの活性化に向け、六反公園での花飾り活動、星槎名古屋中学校での盆踊り、山車行事（唐子車）、防災訓練などの様々な地域活動が行われています。



花飾り活動



盆踊り



山車行事（唐子車）



六反学区防災訓練

まちづくり協議会のエリアマネジメント活動

名駅南地区まちづくり協議会では、地区内の企業が中心となり、地区の持続的な発展と価値向上を目指し、様々なエリアマネジメント活動が行われています。

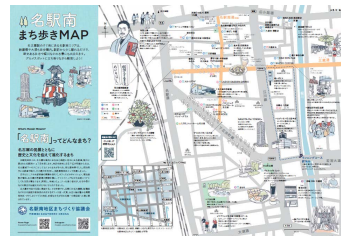
- ・まちづくり…公共空間の有効活用実験（祢宜公園、道路空間）、三蔵通ガイドラインによるまちなみ誘導の検討、周辺開発に対する提言
- ・美化活動…ハンギングバスケットの設置、定例清掃活動
- ・情報発信…まち歩き MAP の作成・配布、SNS や HP



祢宜公園の有効活用実験



ハンギングバスケット



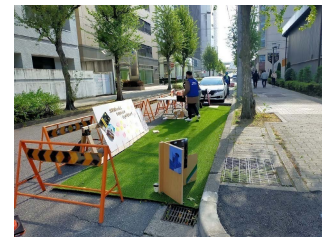
名駅南まち歩き MAP

クリエイティブチャレンジ

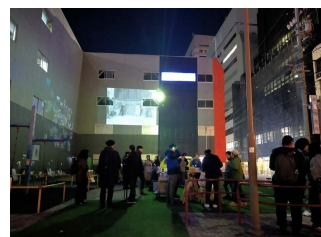
地域とクリエイティブが触れ合う機会と新たなまちの魅力の創出に向け、名駅南地区まちづくり協議会と名古屋工業大学伊藤孝紀研究室が連携し、市民のまちなか空間を活用したクリエイターによるパフォーマンスや展示などのクリエイティブなまちづくりの取り組みが行われています。2023 年 11 月には車道空間も活用したクリチャレ Part 3 を実施しました（Part 1：2022.10 実施、Part 2：2023.3 実施）。



祢宜公園前車道での展示



四季劇場前車道での展示



祢宜公園での映画上映会